

## ニューノーマル時代を見据えて



清水建設株式会社  
専務執行役員  
技術研究所長  
石川 裕

2020年は新型コロナウイルスの蔓延により世界の景色が一変しました。感染防止のために接触機会の削減や移動の自粛をはじめとして様々な社会活動が制限され、対人サービス産業を中心に甚大な経済影響が生じています。他方、テレワークやオンライン授業などの大規模な社会実験が行われることとなり、企業や行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）が急進していく息吹が芽生えました。生活様式や働き方がダイナミックに変貌する中で、建設会社が果たすべき役割も変化が求められることになりそうです。

今回お届けする研究報告では、感染制御科学をご専門の順天堂大学大学院教授の堀賢先生にお願いして、特別寄稿「パンデミックに備えて建築はどのように対応すべきか？」を掲載いたしました。堀先生にはこれまでも同大学病院の計画・設計や共同研究を通じてご指導を頂いており、今回のパンデミックを受けて、感染症への企業の備えや建設分野の果たす役割についてご寄稿いただきました。

小特集は「AI（人工知能）」を取り上げました。近年様々な分野で活用が進んでいるAIですが、当社においても2019年1月にAI推進センターを組織し、全社に係る種々の業務へのAI活用を推進しています。小特集では同センターで進めている事例の紹介に加えて、シールドトンネル施工、資材運搬ロボット、画像AIによる作業分析などの論文を掲載しています。一般論文では、建築・土木の構工法、液状化対策、空調制御、環境、都市政策支援など、多岐にわたる15編の研究開発成果を紹介しています。

技術研究所ではコロナ禍がもたらした大きな社会変化をチャンスと捉え、新たなニューノーマル時代を先取りした研究・技術開発を加速させていく所存です。引き続きのご指導をよろしくお願い申し上げます。